

法人名	大阪モノレール株式会社
作成（所管課）	都市整備部交通戦略室鉄道推進課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○府域における都市周辺部の交通利便性の確保・向上と都市圏の調和のとれた発展に寄与する

- ・持続可能な交通機能の確保
- ・質の高い運輸サービスの効率的な提供

■ 大阪府の施策

- ・都市内交通の円滑化

基本方針

1 質の高い「軌道事業」
 (1) 安全と安心の徹底
 設備の最新化などの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定輸送を確保する。
 事故・重大インシデント「ゼロ」をめざす。

(2) 交通サービスの向上
 駅設備の充実などにより、高齢者、障がい者、外国人等を含めたすべての利用者が、安全にストレスなく外出を楽しめるように交通サービスを強化する。

(3) 南伸事業の推進
 2033年度の開業に向けて、大阪府と密接に連携して、着実に事業を推進する。

2 暮らし豊かな「駅まち事業」
 駅を地域の玄関口として捉え、まちとの一体性を重視し、ハードとソフトの両面から、改良や整備、新サービスを推進し、沿線価値の向上を図る。

大阪モノレールの「顔」となる多様なイベントの開催などにより、外出機会を創出し、沿線のにぎわいづくりを行うとともに、快適にご利用いただけるよう駅設備を充実する。

3 次代に向けた「組織強化」
 社員のモチベーション向上を図り、働きがいのある成長する会社へ変わるよう「人への投資」を行うとともに、利用者や地域の方々とその時々の社会課題の解決に取り組む。

4 法人経営の安定化
 南伸開業後の中長期的にめざす姿を見据えながら、増収策の実施と経費節減に努め、経営の安定化を図る。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 安全・安定輸送の確保
 ・事故・重大インシデント「ゼロ」
 【0回(R6実績)→0回(R11)】
 ・設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生数
 【0回(R6実績)→3回(R11)】

② 安全投資
 ・新型車両への更新
 【2編成(R6実績)→1編成(R11累計)】
 ・分岐器制御盤の更新
 【0台(R6実績)→3台(R11累計)】

③ サービスの向上
 ・接客サービスマナー検定(2級)の資格取得
 【なし(R6実績)→毎年度5名程度(R11)】

④ 外出機会の創出
 ・プロモーション(イベントや企画乗車券等)の実施項目数
 【4項目(R6実績)→5項目(R11)】

⑤ 収益性の確保、財務の健全化
 ・売上高
 【111億円(R6実績見込)→112億円(R11)】
 ・EBITDA
 【47億円(R6実績見込)→45億円(R11)】

法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

○ 令和6年度の経営目標達成状況及び令和7年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウェイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウェイト	中期経営計画 (R7～R11)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R7 目標値	最終年度 目標値	
① 安全・安定輸送の確保	事故・重大インシデント「ゼロ」		件	30	0	0	0	0	30	0	0	・鉄道事業者は安全・安定輸送が最大の使命である。 ・安全投資や維持修繕を確実に実施することにより、安全・安定輸送を確保する。 ・常に安全教育・訓練を実施し人材育成を行うことにより、安全マネジメント体制を強化する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項	
最重要とする理由、 経営上の位置付け	大阪モノレールは、「安全な鉄道」として、お客さまから信頼される公共交通機関をめざすことが使命であることから、事故・重大インシデント「ゼロ」を最重要目標とした。 ※事故:軌道事故等報告規則第一条第一項に定められた事象をいい、運転事故等報告書(第一号様式)により近畿運輸局へ報告したもの ※重大インシデント:軌道事故等報告規則第二条に定められた事象のうち、運輸安全委員会設置法施行規則第二条に掲げた事項 (運輸安全委員会の調査対象となるもの)											
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	1. 計画的な安全投資の実施 ・故障リスクの軽減を図り、安全・安定輸送を確保するため、計画的に老朽化した設備の更新を実施する。 2. 実践的な安全教育・訓練 ・R6年度は、非常時合同訓練、テロ対応訓練、情報伝達訓練及び過去事例に基づくディスカッション研修など、実践的な訓練・教育を行うとともに、対策本部運営訓練等を実施し、地震発生時の対応力の強化を図った。 ・R7年度も、引き続き上記訓練・教育を実施し、社員一人ひとりの対応力をさらに強化する。											
活動方針	1. 計画的な安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ②施設の更新・改良 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 ③過去事例に基づくディスカッション研修 ④委託会社等との連携強化											
	1. 計画的な安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ・新型車両への更新 1編成更新(7月) ・分岐器制御盤の更新 1台更新(2月) ・電気室の更新 1室更新(3月) ・継電運動装置の更新 万博記念公園駅、南茨木駅(3月) ②施設の更新・改良 ・光ケーブルの敷設 南茨木～南摂津間(3月) ・車両部品落下防止対策 5編成更新(2月) 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 大規模災害・事故、テロ発生時などにおけるお客さま救出(避難誘導)等の社員一人ひとりの対応力強化を図るため、大阪府・消防・警察などと合同で、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。 R7年度も、引き続き上記訓練を実施し、社員一人ひとりの対応力をさらに強化する。 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 大規模災害発生時における業務運営上の対応可能者把握のための社員の安否確認をはじめ、大規模災害・事故、テロ発生時などに於ける情報連携を強化するため、津波防災の日訓練(11月)、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。 さらに、情報伝達訓練(対策本部運営訓練)(12月)を実施し、被災度推定システムの運用確認を行う。 ③過去事例に基づくディスカッション研修 事故、トラブルの未然防止を図るため、社内外で発生した過去事例を題材に、社員の安全行動・思考強化を狙った社内研修を実施する。 ④委託会社等との連携強化 点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図るため、工事請負者と合同で技術部施工計画検討会を工事発注の都度実施する。											

法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R7～R11)		R7目標設定の考え方 (数値の掲載) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項																								
										R7 目標値	最終年度 目標値																										
① 安全・安定輸送の確保	設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生数		回	10	3	3	0	↓3	10	3	3	・設備故障等自社責任による遅延発生回数が少ないことは安定輸送の確保につながることから、遅延回数を指標とする。 ・20分以上は、国への報告義務の30分以上より厳しい目標値としたためである。 ・長期的な数値をもとに設定した中期経営計画の「3回以下」をR7年度の目標値とした。	・未然防止策はもとより、事後対応力強化のため実践的な教育訓練を実施する。 ・大阪府・消防・警察と連携した非常時合同訓練、テロ対応訓練 ・情報伝達訓練(対策本部運営訓練) ・輸送障害により不通区間が発生した場合の折り返し運転訓練																								
② 安全投資	新型車両への更新		編成	5	-	2	2	↓1	5	1	累計1	・新型車両への更新は、車両故障のリスク軽減が図れることから安全投資の指標とする。 ・加えて、お客さまサービスの向上やメンテナンスの省力化を実現した新型車両への更新は、車両の快適性の面でお客さまニーズも高い。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画(R2-R6)における見込値よりも売上高が減少することから、R3年度に新型車両更新計画などの投資計画時期の見直しを行った。 ・この計画に基づき、R7年度に1編成を更新する。 ＜見直し後の計画＞ (単位:編成) <table><tr><td>年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td><td>合計</td></tr><tr><td>中期経営計画</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td>見直し後</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>8</td></tr></table>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	中期経営計画	1	3	4	0	0	0	8	見直し後	1	2	2	0	2	1	8
	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計																													
	中期経営計画	1	3	4	0	0	0	8																													
見直し後	1	2	2	0	2	1	8																														
分岐器制御盤の更新	☆	台	-	1	-	(0)	1	5	1	累計3	・分岐器は、運行に係る根幹施設であることから、安全投資の指標とする。	・安全を最優先に確実な工程管理を行い、R7年度に1台(万博車両基地分岐器制御盤)の更新を完了する。																									
	工作車の更新		両	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-																								
③ サービスの向上	接客サービスマナー検定(2級)の資格取得	☆	名	-	(0)	-	(0)	4	10	-	毎年度 5名程度	・多様化する利用者への対応力を強化し、ワンランク上のサービスを提供するために中期経営計画期間内(R7～R11年度)に駅助役業務を担うプロパー社員全員の接客サービスマナー検定(2級)資格の取得をめざす。 ＜参考＞ 接客サービスマナー検定とは、「特定非営利活動法人日本サービスマナー協会」が主催し、ワンランク上の上質な接客サービスが求められる分野での人材の育成を目的とした民間資格である。	・R7年度は駅助役業務を担うプロパー社員4名の資格取得をめざす。																								
	サービス介助士資格の取得		人	10	25	26	26	-	-	-	-	-	-																								
④ 外出機会の創出	プロモーション(イベントや企画乗車券等)の実施項目数		項目	10	4	4	4	5	10	5	5	・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。 ・R7年度に下記5項目のプロモーションを実施する。 ・万博鉄道まつりの開催 ・イベント列車の運行 ・沿線企業・学校・自治体との連携したイベントの開催 ・音楽&マルシェの開催 ・関西Maas等を活用した企画乗車券の発売																									

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 収益性の確保、財務の健全化	売上高(軌道業営業収益+兼業事業営業収益)		億円	10	107	109	〔111〕	112	10	112	112	・安全・安定輸送を継続し、運輸収入を確保する。 ・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、利用者数の増加につなげ、売上高を増加させる。	・計画的な安全投資の実施(再掲) ・実践的な安全教育・訓練(再掲) ・外出機会の創出で挙げた5項目のプロモーションを実施する(再掲)
	EBITDA(営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用)		億円	20	53	46	〔47〕	48	20	48	45	・設備投資計画の実現と南伸に向けた投資への備えのために、営業活動で生み出されたキャッシュフローであるEBITDAを指標とする。	・安全・安定輸送を図るため、設備投資や修繕などを確実に実施するとともに、交通サービス投資においても、財務の健全性を考慮しつつ、実施時期を見直しながら進める。

【凡例】

- ・☆はR7年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・() 内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

C S 調査の実施概要

○令和6年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	(1)委託会社 株式会社マクロミル (2)実施方法 インターネットモニターアンケートを保有しているアンケート調査会社（株式会社マクロミル）が、調査条件に見合った回答者を抽出して、調査を実施	下記の条件の中で、1年以内に大阪モノレールを利用したことがある京都府・大阪府・兵庫県在住者 ① 最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方 ② 最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方	(1)回収サンプル数 スクリーニング調査回収数：52,870サンプル 本調査回収数：4,092サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方：1,405サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方：2,687サンプル (2)本調査回答者・大阪モノレール利用頻度分布 ①ヘビーユーザー(週4日以上)：408サンプル(10.0%) ②ミドルユーザー(月1日～週3日)：1,114サンプル(27.2%) ③ライトユーザー(過去1年では1日～年に数日)：2,570サンプル(62.8%)	R7年2月17日(月)～ R7年2月25日(火)

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<実施結果> 大阪モノレールの各種満足度（※）は、「列車運行の正確さ」が最も高く49.3%、次いで「駅構内の設備・環境が整っていること」と「列車内の快適さ」の44.2%と続いた。 一方、満足度が低い項目は、「運賃」の18.2%、次いで「終電の時間」の27.8%、「列車の運行間隔」の30.2%と続いた。 (※)「とても満足/やや満足/ふつう/やや不満/とても不満/わからない」という選択肢から、「とても満足」または「やや満足」を選択した割合 <大阪モノレールの改善要望・希望> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■本数を多くしてほしいのと、終電を遅くしてほしい。 ■もう少し運賃が安ければ今以上に利用したいと思います。 ○延伸 ■延伸することで乗客が増えて、運賃が安くなれば仕事だけでなく観光でも乗りたいと思える。 ○安全な運行 ■今後も安全に運行してください。 ■より安全な運行ができるよう、構内の環境を整えてほしい。 ○設備の改良 ■駅の設備の改良、エレベーターを増やす、トイレの数を増やす、エスカレーターの新設を期待。 ■大きな荷物の人も多いため、車両を増やすか、本数を増やして欲しい。 ○イベント ■もう少し子ども向けのイベントを増やしてほしい。夏休みや冬休み以外にも子ども向けイベントがたくさんあると行きたい。 ■小さい子向けだけでなく学生や大人も参加できるようなイベントがあれば参加したいです。	<大阪モノレールへの改善要望・希望を踏まえた取組> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■<u>ご利用状況に応じたダイヤ改正を実施する。</u> ■<u>関西MaaS等を活用した企画乗車券を発売する。</u> ○延伸 ■<u>公共交通ネットワークの拡充に向けて、採算性を確保しつつ、延伸事業を確実に推進する。</u> ○安全な運行 ■<u>新型車両への更新及び分岐器制御盤の更新を行う。</u> ■<u>激甚化する自然災害対策として、分岐橋制震化、車両部品落下対策を実施する。</u> ■<u>社員の一人ひとりの対応力強化のため、関係機関と合同で非常時対応訓練や、社員の安全行動・思考に寄与する研修を実施する。</u> ○設備の改良 ■<u>防犯カメラを活用した見守りシステムを導入する。</u> ■<u>駅構内に空調設備を設置する。</u> ■<u>情報発信LEDビジョンの設置及び多言語放送システムの導入を行う。</u> ○イベント ■<u>国内最大級の屋外鉄道イベント万博鉄道まつりを開催する。</u> ■<u>大阪モノレールの日本酒列車などイベント列車を運行する。</u> ■<u>沿線の企業、学校、自治体と連携したイベントを開催する。</u> ■<u>万博記念公園駅構内で「音楽&マルシェ」を開催する。</u>

○令和7年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	未定	未定	未定	未定

法人名

大阪モノレール株式会社

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
工作車の更新	両	1

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
分岐器制御盤の更新	台	1

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	・R6年度に工作車の更新が完了したため、R7年度は安全投資の指標を優先度の高い「分岐器制御盤の更新」に変更した。 ・安全・安定運行のための弛まぬ取り組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。 ・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。
------------------------------	--

〔2〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
サービス介助士資格の取得	人	26

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
接客サービスマナー検定 （2級）の資格取得	名	4

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	・R6年度にサービス介助士資格の全駅係員の取得が完了したため、R7年度はサービスの向上の指標を「接客サービスマナー検定（2級）の資格取得」に変更した。 ・多様化する利用者への対応力を強化し、ワンランク上のサービスを提供するため、駅係員のサービスレベル向上をめざしている。 <参考> 接客サービスマナー検定とは、「特定非営利活動法人日本サービスマナー協会」が主催し、ワンランク上の上質な接客サービスが求められる分野での人材の育成を目的とした民間資格である。
------------------------------	--

法人名

大阪モノレール株式会社

■ 令和6年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生数	回	0	3

マイナス （現状維持） 目標の考え方	・設備故障等自社責任による遅延発生数については、国への報告義務の30分以上より厳しい指標としている。 ・そのうえで、長期的な数値をもとに設定した中期経営計画の『3回以下』をR7年度の目標値とした。 <参考> H27年実績 3回 H28年実績 1回 H29年実績 2回 H30年実績 3回 R1年度実績 7回 R2年度実績 2回 R3年度実績 0回 R4年度実績 2回 R5年度実績 3回 R6年度実績 0回

〔2〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
新型車両への更新	編成	2	1

マイナス (現状維持) 目標の考え方	・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画（R2-R6）における見込値よりも売上高が減少したことから、R3年度に新型車両更新計画などの投資計画時期の見直しを行った。																														
	・この計画に基づき、R7年度に1編成を更新する。																														
	＜見直し後の計画＞							(単位：編成)																							
	<table><tr><th>年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>合計</th></tr><tr><td>中期経営計画</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td>見直し後</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>8</td></tr></table>								年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	中期経営計画	1	3	4	0	0	0	8	見直し後	1	2	2	0	2	1
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計																								
中期経営計画	1	3	4	0	0	0	8																								
見直し後	1	2	2	0	2	1	8																								